

第 58 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：平成 30 年 10 月 26 日（金）16 時 30 分～18 時 00 分

会 場：東北大学災害科学国際研究所棟 1 階 会議・セミナー室（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

テーマ：若手研究者が見据える災害科学研究

1. 16:30-17:00 （発表・質疑応答 30 分）

タイトル：東日本大震災を踏まえた津波死に関する体系化の試み

話題提供者：門廻 充侍（災害リスク研究部門 津波工学研究分野）

発表要旨

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災によって我が国は甚大な被害を受けた。警察庁の公表した東北 3 県における犠牲者の死因において、津波に関係する溺死は 90% であった。一方で、日本法医学会や厚生労働省の報告によると、溺死以外にも、頭部損傷や低体温症も死因として記載されていた。これは、津波災害における多様な死因の可能性を示唆している。そこで、報告書および法医学書を基に津波死を調査し、津波死の体系化を試みた。

2. 17:00-17:30 （発表・質疑応答 30 分）

タイトル：インフラアセットマネジメントへの数理的アプローチと災害研究との関連性

話題提供者：水谷 大二郎（人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野）

発表要旨

インフラは公共物であり、平常時、災害時に関わらず、そのパフォーマンスを発揮できるように、適切に維持管理を行う必要がある。本発表では、インフラを資産（アセット）と捉え、その価値を最大化するためのアセットマネジメントに関する最新の数理的研究を紹介するとともに、災害研究への応用可能性、災害研究との融合可能性に関する示唆を行う。

3. 17:30-18:00 （発表・質疑応答 30 分）

タイトル：社会関係資本論の観点から見た防災と復興支援

話題提供者：瀧川 裕貴（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）

発表要旨

発表者は、防災や自然災害からの復興に際して、地域や人々の社会的つながりがどのような役割を果たすかという観点から研究をしている。タイトルにある社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）とは、人と人とのつながりのことで、具体的には地域の人々がお互いに信頼しあっていたり、地域の約束事やルールが皆に良く守られていることをいう。このようなソーシャル・キャピタルが復興支援や防災意識に与える影響を、質問紙調査データの統計解析を通じて明らかにする試みについて紹介したい。

司会・進行：江川 新一（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）